

2. 美術品の情報とその利用

美術鑑賞にとって、言葉による説明や解説はたしかに二義的なものですが、美術品の一つ一つがもつ意味、位置、価値は言葉によって伝達されます。これが美術品の文化情報価値ということになりましょう。美術館は所有している美術品を鑑賞の対象物として提供するだけでなく、ひろく文化情報伝達の対象物として活用することを考えなければなりません。最近、年賀状やカレンダー、レコードのジャケット、チョコレートやクッキー、化粧品の外装、書籍の装丁、室内装飾などの意匠に美術品を用いることが非常に多くなりました。これは、それぞれの品物の内容に「美しさ」をプラスして、その商品全体のイメージアップをはかり、商品価値を高めようとするため、このようなところには美術品のもつ情報価値が積極的に発揮されています。この傾向は今後ますます顕著になると考えられます。

美術館〈大和文華館〉は、この美術品のもつ情報を個人に対してはより深く、社会に対してはより広く伝達して、明日を築く創造力のための場としたいと思い、次のようなことを理想として、この70年代を歩みたいと考えております。

(1) 出版

■「大和文華」

大和文華館発行の美術研究誌「大和文華」は、昭和26年創刊以来53号にいたりました。既刊の各号は、館蔵品を中心に美術品の優れた原色図版によって名品を鑑賞しながら、専門研究家の執筆による論文により、知識を得られる豊富な内容をもって高く評価されてきました。ことに当館が開館した昭和35年以後は、毎年春秋に開催した特定のテーマによる特別展覧の資料を基本として充実した内容の特輯号を企画し、発行しましたところ一層の好評を得て、売り切れの号が続くようになりました。なかでも立花古伝書資料を網羅した「いけばな」特輯号は花道研究家のテキストに使用されるなどして、たちまちに売り切れました。その後も諸方面からの要望が絶えないので、このたびついに再版を発行することになりました。これは、その特輯のテーマに関心をもち、あるいは研究に志す人々にとって基本の研究書ともいえるべき内容をもっているからだと思えます。

多数の美術図書が発刊される現在、当館では今後も展覧の成果をもって研究書の出版へと実を結ぶこの方針を貫いて、営利目的では出来ない出版を重ねていきたいと考えております。原色図版の増加新しい優れた研究論文の発表など、私達はこの「大和文華」を理想の美術研究誌へと近づけ、皆様の教養のための必携の書にしたいと考えております。

■複製

美術館の大切な仕事の一つに、複製の出版があります。これはある美術品のもつ情報価値を出来るだけオリジナルに忠実に再現して、その普及をはかろうとするもので、高度の印刷媒体としての意味をもっています。一方、美術館はこの複製の利用についても考えなければなりません。例えば、美術館へ行って、そこの優れた複製コレクションの中から、適当な「名画」を選び出し、リース（借出）して、入院中の友人にお見舞品として届けたり、またおじいさん、おばあさんの部屋に、好きな絵を毎月とりかえて飾ってあげるなど、その積極的な利用はいろいろあるでしょう。

また美術館がみずからのコレクションはもとより、内外の著名な美術品の複製を、ちょうど観葉植物がそうであるように、ホテルやオフィス、レストランその他にレント（貸出）することも考えられます。私達はこのような「レプリカ（複製）・サブライ」のもつ大きな可能性を思い、それを実行に移したいと考えております。

(2) ミュージアム・ライブラリー

ミュージアム・ライブラリー、これは美術館にある美術専門の図書館のことです。大和文華館では、美術品の調査、研究、蒐集、展示のため、直接に役立つ図書を集めています。そのため、蔵書の内容は美術品の図録、美術や歴史についての史料集、および美術についての研究雑誌が主要な部分をしています。いま約13,000冊の図書がありますが、毎年少しずつでも蔵書の拡充につとめていますので、ミュージアム・ライブラリー、あるいは美術図書館としてのかたち次第にととのってきています。これらの図書は今のところ当館の業務に使われているだけで、一般に公開されておりません。公開するためには、施設や人員の面でいろいろの準備が必要だからです。しかし、私達は美術品を愛し、理解し、研究するために基本となる図書をできるだけ広い範囲にわたって集めて、日本にほとんどない美術専門の図書館を作り、それをやがては皆様方のすべてに公開し、利用していただきたいと考えております。



季刊 美のたより No.15

昭和45年11月1日

発行 大和文華館